

I 主要事業と実施状況

I 平成 25 年度学校法人東北公益文科大学主要事業と実施状況

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>1 特色・魅力ある教育の実現</p> <p>(1) 学科・カリキュラム</p> <p>①庄内の文化の開講</p> <p>②留学の推進</p>	<p>平成 24 年度より、1 年次科目として、庄内に立地する本学が公益の探求と実践に当たることの意味を考えるとともに、グローバル社会において必要とされる日本人の精神文化を身につけ、国際人としての品格と自負を養うことを目指す「庄内の文化」を開講している。</p> <p>平成 25 年度からは、1 年次の必修科目とし、致道館での論語の素読体験、善寶寺や羽黒山での修行体験などを、1 年生全員を対象に実施している。参加した学生からは、普段考えることがなかった地域の歴史や文化について深く考える機会となったといった評価が得られた。また、大学コンソーシアムやまがたによる「社会人力育成山形講座」の科目としても設定し、山形大学など他大学の学生も修行体験などに参加した。</p> <p>平成 26 年度は、体験後の反省（振り返り）の時間を設けるなどして、より一層学生の理解が深まるよう取り組みを進めていく。</p> <p>平成 24 年度から進めてきた、半年または 1 年間の長期留学を行う学生が 4 年で卒業できるための仕組みづくりがほぼ整い、平成 26 年度から本格的に実施できることとなった。具体的には、一定の条件を満たした学生の留学を認定留学とし、留学先での修得単位を本学の単位として認定する方法や、通年科目である専門演習を分割して履修することができる仕組み、留学期間中の本学への学生納付金を免除する制度などを導入した。今後は、交換留学や派遣留学のための協定の締結などに取り組みたい。なお、平成 25 年度においては、中国精華大学に学生 1 名が 1 年間の長期留学を行い、本学の学費を当該期間免除する支援を行った。また、海外短期留学対象国と対象大学を拡大し、新たにアメリカ合衆国クレイトン大学とアイルランド共和国ヨーク大学を留学先に追加した。これにより、平成 25 年度の短期留学参加者数は英語圏に 13 名、ロシアに 9 名となった。</p>

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>④他大学との連携</p>	<p>して優れた取り組みをドミトリー単位で表彰する「ドミトリーアワード」を実施し、学生の自主性と規律の向上、およびコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を図るなどの取り組みを行った。</p> <p><秋田大学・秋田県立大学></p> <p>秋田大学との連携協定に基づき、次世代の地域活性化リーダーを育成することを目的としたリーダー養成プログラム「きたまえ塾」を、11月に秋田県横手市増田町で実施した。</p> <p>「きたまえ塾」では、本学学生8名と秋田大学学生10名が、各界のリーダーによる講演、ならびにリーダーと共に行うフィールドワーク・グループワークを組み合わせたワークショップにより、地域を活性化する1泊2日のプログラムに参加した。</p> <p>また、山形県庄内総合支庁と秋田県由利地域振興局による協働実施事業「環鳥海地域魅力発見プロジェクト」ワークショップに、本学学生9名と秋田県立大学学生6名が参加した。</p> <p>いずれの取り組みにおいても、大学混成による少人数のグループを複数編成し、互いに企画力やプレゼンテーション力を競い合う形式で行われ、学生自身が成長を実感できる機会となったとともに、地域の方々からも高い評価をいただいた。</p> <p><大学コンソーシアムやまがた></p> <p>美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開（平成24年度文部科学省採択事業）の連携校として参加しており、補助金の採択により県内各大学が単位互換制度を活用した新規科目の開設など、新たな教育事業を展開した。</p> <p>本学では「アントレプレナーシップ演習Ⅰ・Ⅱ」「アントレプレナーシップ論Ⅰ・Ⅱ」（担当：青木孝弘特任講師）、「社会企業家論」（担当：西田みづ恵特任講師）を山形起業教育科目として開講し、山形大学学生を含む延べ50名の学生が受講した。</p> <p>また、単位互換履修生として、本学学生延べ32名を山形大学に派遣した。</p>
<p>⑤一流体験・合宿型研修プログラム</p>	<p>東北公益文科大学後援会のご支援により、本学学生が日本を代表する一流の人物、仕事、文化・芸術等を体験し、次代のリーダーにふさわしい教養を体得する合宿型のプログラムを、平成24</p>

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>(3) 大学院の魅力作り</p> <p>①社会の要請に応じた研究分野・方向性の構築</p> <p>2 結果を出せる就職支援</p> <p>①社長インターンシップ</p>	<p>年度から実施している。平成 25 年度は、学生 19 名が 2 泊 3 日の研修に参加し、著名な起業家の講演を聞いたり、一流ホテルの接客を体験したり、生番組を世界中に配信するなどの研修を受けた。また、世界的建築家で東大名誉教授の安藤忠雄氏が、本学学生のために特別に講演を行ってくださり、当日参加の学生 38 名も参加した。講演の後は熱心な質疑応答が行われ、本学学生にとって極めて有意義な機会となった。</p> <p>社会の要請に応じた研究分野・方向性の構築に向け、第一段階として、大学院の入学者状況や運営体制等について現状分析と課題の整理を行った。また、関連事業として、客員教授の佐々木毅氏ならびに西尾勝氏を特別講師に迎え、社会で注目されている課題である選挙制度改革や地方自治のあり方について演習形式の公開講座を実施し、大学院生、学部学生、市民、計 18 名が受講した。</p> <p>本学では、平成 24 年度よりインターンシップや社会福祉士実習など、地域全体で学生のスキルアップをはかる「地域・大学協働人材育成プログラム」を実施しており、この取り組みの 1 つである「社長インターンシップ」では、学生が地元企業のトップに密着し、経営トップの考えを学ぶことによって社会人力を磨いている。</p> <p>平成 25 年度は、旅館業や飲食業、製造業など 10 の企業・団体よりご協力いただき、1～3 年生 11 名が社長の「かばん持ち」を体験したほか、山形県庄内総合支庁においても、はじめての社長インターンシップを実施した。また、社長インターンシップでの実習成果を発表する「実習報告会」を、12 月 20 日に本学酒田キャンパスで開催し、実習を引き受けていただいた企業・団体の社長・代表のほか、本学後援会法人会員の方々にも多数ご出席いただき、1、2 年生を中心に数多くの学生も参加するなど、学内外の関心の高さが感じられる報告会であった。学生たちは、実習先での実習内容や、実習を通しての学びや気づき、課題、今後の抱負などを発表し「社会人になる意識が高まった」「普段とは違う環境に飛び出してみると、自分に足りない力が何なのか気づくことができた」などと実習を振り返った。</p>

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>②トップセミナー</p> <p>③キャリア教育・進路支援活動</p>	<p>また、実習の様子が新聞や県内ニュース等で放送されるなど、本学の人材育成に関する取り組みを広く PR することができた。</p> <p>各界で活躍するリーダーの講話を聴き、将来を考えることを目的とした「トップセミナー」では、地域を中心に産業界をはじめ様々な分野で先駆的な役割を担っている 12 名の講師をお招きし開講した。学生達は普段、直接話を聴く機会がない講師陣の講話に熱心に耳を傾け、積極的に質問していた。</p> <p>キャリア教育においては、1 年次「キャリア入門」、2 年次「キャリアと人生」、3 年次「就職セミナー」や「インターンシップ」など低年次から継続的にキャリア科目を配置するとともに課外講座である「就職力強化セミナー」を開講し、学生の進路に向けた意識の高揚を図り就職に関する知識や技能のスキルアップに務めた。</p> <p>学生の就職支援のため各種の事業を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職アドバイザーや教職員等による企業訪問活動の実施 ・ 学生の進路相談、模擬面接やエントリーシート添削等の実施 ・ 学生ここの希望に応じた求人紹介の展開 ・ 学内における合同企業説明会や個別企業説明会の開催 ・ 東京や仙台等における合同企業説明会への学生送迎バスの配車 ・ 就職試験対策として「就職筆記試験講座」、「介護職員初任者研修課程」等の開講 ・ 3 年生全員との進路に関する個別面談の実施 ・ 連続 2 日間にわたる面接対策強化講座の開講 (2 回) ・ 3 年生の保護者を対象とした保護者就職懇談会の開催 ・ 月 2 回のキャリア開発センターニュースの発行 ・ 就活に必要な就職手帳の作成、配布 ・ 月 2 回の「出張ハローワーク」の開催 ・ 企業向の就職用パンフレットを作成し、県内外約 1,000 社に送付 ・ 就職内定した学生による「就活サポーター」活動の展開

主 要 事 業	実 施 事 業																																																																								
④資格取得支援	<p>本学では、課程履修による教員免許や社会福祉士資格取得をはじめ各種資格取得のための課外講座の開講や資格試験の学内の代行実施など学生の資格取得を支援している。さらに大学保護者会の協力により資格試験の受験料助成を行っている。</p> <p>(助成内容 (保護者会予算 平成 25 年度 600 千円))</p> <p>受験した場合・・・1 / 3 助成</p> <p>合格した場合・・・さらに1 / 3 助成</p> <p>【資格取得状況】</p> <p>○ 課程や講座を受講により取得</p> <table border="1" data-bbox="958 560 2040 874"> <thead> <tr> <th></th> <th>資 格 名</th> <th>人 数</th> <th colspan="2">摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学教員免許</td> <td>9</td> <td rowspan="3">所定単位取得で卒業時に付与</td> <td rowspan="3">正課の中で実施</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高校教員免許 (公民)</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>高校教員免許 (地歴)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会福祉士</td> <td>7</td> <td>所定単位取得後、国家試験を受験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>介護職員初任者研修</td> <td>5</td> <td colspan="2">課外講座にて実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 検定を受検し、合格して取得</p> <table border="1" data-bbox="958 919 1924 1425"> <thead> <tr> <th></th> <th>検 定 名</th> <th>受 験 者</th> <th>合 格 者</th> <th>合 格 率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TOEIC IP</td> <td>59</td> <td colspan="2">スコア表示のため合否なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2</td> <td>中国語検定 (3 級)</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>20.0%</td> </tr> <tr> <td>(4 級)</td> <td>22</td> <td>5</td> <td>11.0%</td> </tr> <tr> <td>(準4 級)</td> <td>21</td> <td>14</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td>漢字検定 (2 級)</td> <td>29</td> <td>8</td> <td>27.6%</td> </tr> <tr> <td>(準2 級)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>販売士 (3 級)</td> <td>16</td> <td>5</td> <td>31.3%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5</td> <td>簿記検定 (2 級)</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>(3 級)</td> <td>12</td> <td>2</td> <td>16.7%</td> </tr> </tbody> </table>		資 格 名	人 数	摘 要		1	中学教員免許	9	所定単位取得で卒業時に付与	正課の中で実施	2	高校教員免許 (公民)	8	3	高校教員免許 (地歴)	4	4	社会福祉士	7	所定単位取得後、国家試験を受験		5	介護職員初任者研修	5	課外講座にて実施			検 定 名	受 験 者	合 格 者	合 格 率	1	TOEIC IP	59	スコア表示のため合否なし		2	中国語検定 (3 級)	5	1	20.0%	(4 級)	22	5	11.0%	(準4 級)	21	14	66.7%	3	漢字検定 (2 級)	29	8	27.6%	(準2 級)	8	7	87.5%	4	販売士 (3 級)	16	5	31.3%	5	簿記検定 (2 級)	6	1	16.7%	(3 級)	12	2	16.7%
	資 格 名	人 数	摘 要																																																																						
1	中学教員免許	9	所定単位取得で卒業時に付与	正課の中で実施																																																																					
2	高校教員免許 (公民)	8																																																																							
3	高校教員免許 (地歴)	4																																																																							
4	社会福祉士	7	所定単位取得後、国家試験を受験																																																																						
5	介護職員初任者研修	5	課外講座にて実施																																																																						
	検 定 名	受 験 者	合 格 者	合 格 率																																																																					
1	TOEIC IP	59	スコア表示のため合否なし																																																																						
2	中国語検定 (3 級)	5	1	20.0%																																																																					
	(4 級)	22	5	11.0%																																																																					
	(準4 級)	21	14	66.7%																																																																					
3	漢字検定 (2 級)	29	8	27.6%																																																																					
	(準2 級)	8	7	87.5%																																																																					
4	販売士 (3 級)	16	5	31.3%																																																																					
5	簿記検定 (2 級)	6	1	16.7%																																																																					
	(3 級)	12	2	16.7%																																																																					

主 要 事 業	実 施 事 業					
<p>3 活気ある学生生活の実現</p> <p>(1) 指定強化運動部支援</p>	6	色彩検定 (2 級)	1	1	100%	
		(3 級)	3	3	100%	
	7	福祉住環境コーディネーター (2 級)	5	2	40.0%	
		(3 級)	4	2	50.0%	
	8	ニュース検定 (3 級)	2	2	100%	
	9	秘書検定 (2 級)	11	6	66.7%	
		(3 級)	3	1	33.3%	
	<p>※上記検定のうち、販売士検定については学内にて受験対策講座を実施している。(色彩検定については、申込者なしのため実施せず。)</p>					
	<p>平成 25 年度より硬式野球部と女子サッカー部を強化指定クラブとし、横田謙人氏、菅野博子氏が監督に就任した。</p>					
	<p>【硬式野球部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度南東北大学野球連盟春季リーグ 3 位 新人王 1 名、ベストナイン 2 名選出 ・平成 25 年度南東北大学野球連盟秋季リーグ 5 位 ベストナイン 2 名選出 ・部員数 21 名 (出身高校：羽黒、酒田南、山形中央、西目、秋田西など) ・週に数回庄内地区の球場、練習施設を利用して練習を行っている。 ・平成 25 年度硬式野球部補助実績 (バス、グラウンド賃借料等含む) 2,924,982 円 <p>【女子サッカー部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 22 回全日本大学女子サッカー選手権大会 (インカレ) 出場 ・部員 10 名 (出身高校：東北、羽黒など) ・週に数回、大学グラウンドで練習を行っている。 ・平成 25 年度女子サッカー部補助実績 (バス賃借料等含む) 975,668 円 					

主 要 事 業	実 施 事 業
<p data-bbox="217 209 537 240">(2) 学生と地域との連携</p> <p data-bbox="217 900 481 932">(3) キャンパス環境</p> <p data-bbox="228 948 593 979">①カフェテリアリニューアル</p> <p data-bbox="228 1267 817 1347">②キャンパス内基幹情報ネットワーク機器設備整備</p>	<p data-bbox="840 209 2042 376">学生と地域の連携については、科目内、科目外を問わず、庄内各地区との連携活動が見られた。科目外のプロジェクトについては学年を問わず、学生の積極的な参加が見られた。25年度は特に、多様な地域また多様な年代層との新しい関わりが多く誕生し、地域連携活動の幅が大きく広がった年といえる。</p> <p data-bbox="840 392 2042 472">庄内地域では「遊佐町蕨岡地区まちづくりゼミ」「鶴岡市加茂地区景観回廊事業」において、本学教員を中心に、本学学生と地域の高校生との協働事業も実現した。</p> <p data-bbox="840 488 2042 608">また、25年度山形県庄内総合支庁・秋田県由利地域振興局の呼びかけによる環鳥海をテーマにした「秋田県立大学との連携事業」を実施。若者同士の交流と、新しいパソコンソフトを使った観光プランのプレゼンテーションに挑戦した。</p> <p data-bbox="840 624 2042 703">「震災復興教育プロジェクト」等、これまで教員が主導で行ってきた東日本大震災への関わりを学生企画、学生目線での取り組みに大きく変化していった年となった。</p> <p data-bbox="840 719 2042 839">地域共創センターで関わった委託事業、採択事業にも学生の参加も積極的に行われた。特に、子どもゆめ基金での採択「かずのふしぎ しぜんのふしぎ」「身近なもので電気をつくろう!」では、学生が小学生の先生役となり指導を行い、学生自身の学びも深まるきっかけとなった。</p> <p data-bbox="840 948 2042 1206">大学の総合的な魅力を向上させるため、これまでの業者委託運営から、大学直営のカフェテリアに運営を一新した。単なる食堂の役割を果たすだけでなく、食育や食文化を伝える場と捉え、地元食材を多用し、おいしくバランスのとれた食事をリーズナブルな価格で提供している。学生が卒業後も思い出すような「母校の味」をつくり、学生が利用したくなる雰囲気づくりに努め、集いの場となることを目指している。今後、学生はもちろん、地域の方々によりいっそうカフェテリアを利用してもらうためにさらなる工夫を重ね、満足度の向上を図っていく。</p> <p data-bbox="840 1267 2042 1439">現在、本学では情報特別選抜の設置をはじめ、ICT教育に力を入れているが、それを更に推進するため、大容量データの利用に耐えうるプラットフォームの整備が必須要件となる。そのために、既存の基幹情報ネットワークをリニューアル・拡充させた。具体的には、開学時に整備した100Mbpsの設備から10倍の帯域となるギガビットイーサネットに対応した機器を導入すること</p>

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>③キャンパス内授業環境システムの整備</p> <p>4 学生確保・広報活動（情報発信）の強化</p> <p>（1）募集体制の充実・強化</p> <p>（2）オープンキャンパスの拡大・充実</p>	<p>により、通信帯域をあげ学内ネットワークの広帯域化を実現した。また、外部へ接続するファイヤーウォール装置を追加することにより、ネットワーク障害に対して冗長性を確保した。</p> <p>なお、本事業は、文部科学省平成 24 年度（補正）私立学校施設整備費補助金の交付を受け、実施したものである。</p> <p>本学では情報処理の基礎理論を必修科目として教育を行っており、高い情報能力を持つ人材の育成に力を入れている。現在、演習環境を提供するための計算機実習設備を用意しているが、これらの設備は平成 13 年度～20 年度にかけて段階的に導入したもので、いずれも正規リースが終了し、経年劣化が見られると共に、仕様・性能において時代の要求に応えることができない。</p> <p>これらの設備を更改、拡充することで、学生が新しい概念・新しい技術を学び、より先進的な情報能力を取得し得る環境、および教員がより高度な講義を行える環境を整えた。具体的には、Unix（Solaris）によるサーバー・クライアントシステム、および VMWare による仮想環境（Windows7/NetBSD）とクライアントによる、推移の激しい ICT 事情にも柔軟に対応可能な環境を構築する。なお、本事業は、文部科学省平成 25 年度私立学校設備整備費補助金の交付を受け行われている。</p> <p>募集体制については、平成 25 年度から新たに山形県置賜地方と福島県の募集広報担当者を配置し、高校等との良好な関係を構築するための対策を行った。また、硬式野球部と女子サッカー部を強化指定部としてそれぞれに監督を招聘し、部の強化と学生募集（優秀な選手のスカウト）を行い、一定の成果を上げることができた。</p> <p>平成 25 年度から 4 月と 11 月にオープンキャンパスを開催し、前年度よりも 2 回増え、年間 10 回開催した。いずれも参加者数は少数であったが、これで 4 月から 11 月まで毎月開催（7・8 月は各 2 回）する日程となった。高校生以外の方の参加を促進するため、7、8 月の開催について</p>

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>(3) 新カリキュラムと地（知）の拠点整備事業の周知徹底</p> <p>(4) DMの活用・強化</p> <p>(5) ホームページのリニューアル</p> <p>(6) マスメディアの活用</p>	<p>は昨年度に引き続き県内を対象に新聞折込チラシによる案内（10万世帯×2回）を行った。また、著名人による講演会の開催をはじめ大学受験に関するプロ講師による情報提供等を企画し参加の促進に努めた。年間を通してこれだけの回数を開催している大学は東北ではまだ少数であることから、今後定着を図り、学生募集にさらなる効果を得られるように対策を立てたい。</p> <p>平成26年度から始まる新カリキュラム（2系5コース3特別プログラム）のPRとカリキュラム内容の理解を図るため、大学パンフレットや各種受験媒体に詳細を掲載したほか、専用冊子を作成し、高校訪問や高校生への配布に活用した。また、東北の私立大学で唯一の「地（知）の拠点整備事業」の採択にあたり、荘内日報や山形新聞をはじめとした東北及び新潟の主要地方紙に一面広告を掲載し、その意義や内容についてのPRを行った。</p> <p>本学へ資料請求のあった高校生に対して、大学の最新情報資料をはじめ、オープンキャンパスや進学ガイダンスへの参加促進、入試への出願促進、奨学制度の活用促進など延べ約18,000名にダイレクトメールを送付した。また、受験関連業者が所有するリストを活用して大学パンフレットや学生募集要項を送付するダイレクトメールを2回実施し、約1,700名に送付した。このほか、センター試験直後に全国40万人の受験生に受験誌広告を発送するダイレクトメール企画に参画した。</p> <p>これまでのホームページのシステム及びデザインを一新した。新しいシステムの導入によりこれまでよりも容易にかつ迅速なホームページの更新が可能となった。また、デザイン的にも明るいイメージのものに変更し、写真を多用したり動画を再生できるようになり、いっそうの内容の充実を図ることができた。</p> <p>社会全般への本学の知名度や認知度の浸透を図るため、マスメディア、特にテレビとラジオ媒体での情報発信を重点的に行った。テレビについてはこれまでも実施してきたCM展開のほか、新たに本学の情報発信のための番組「KOEKI PERSON」（山形放送）を制作し、7月から12月にかけて毎週1回、全26回の放送を行った。また、ラジオについては、高校生の公益活動の中</p>

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>(7) 地元自治体等との連携</p> <p>5 大学運営に対する意識改革</p> <p>(1) 教員・職員の評価制度導入</p> <p>(2) 外部資金の積極的な獲得</p> <p>①「地(知)の拠点整備事業」の採択</p>	<p>心としたさまざまな社会活動を紹介する番組「チノタネ」(FM 山形) を制作し、11 月から翌年 3 月まで全 20 回の放送を行った。いずれも放送後はホームページにて 2 次利用し、県外からも聴取・閲覧できるように配慮し情報発信の強化を行った。</p> <p>「地(知)の拠点整備事業」の採択を受け、本学の知名度のいっそうの向上を図るため、山形県庄内総合支庁の協力により、「山形県庄内総合支庁&東北公益文科大学 わたしたちは、地域づくりのパートナーです」のキャッチコピーを作成し、同庁で使用する封筒等に PR 広告として表示した。また、山形県庄内総合支庁及び、酒田市、鶴岡市、遊佐町、三川町の協力により、各庁舎のロビーに本学の資料を配置するコーナーを設け、住民の方への情報発信の場としての活用をはじめた(庄内町は 26 年 5 月に設置)。このほか、庄内空港ビル(株)の協力により、10 月と 1 月に空港内の展示スペースにおいて、本学の教育・研究・学生活動等を紹介するパネル展示を開催し、空港の利用客への PR 活動を行った。</p> <p>本学の目的である社会と時代の要請に応え得る有為な人材の育成を実現するため、大学改革を進めていく一環として、教職員の役割の重要性を鑑み、これまで実施されていなかった教職員の評価制度を導入した。教員の教育・研究活動や職員の業務運営等の諸活動について定期的に評価し、その結果をフィードバックすることにより、個々の職員のモチベーションを向上させ、自己改善を促し、もって、教育・研究、事務運営の活性化と向上を図り、本学の理念実現に資することを目的としており、単なる人事考課的なものではなく、教職員同士のコミュニケーションの活性化を促し、本学の理念実現に繋げていくことを重視している。平成25年度については、年度途中からの試行的なスタートとなったが、今後、課題の整理、基準の見直し等を図っていき、より効果的な制度にしていくことを目指す。</p> <p>文部科学省が平成 25 年度から取り組んでいる「地(知)の拠点整備事業」(大学 COC 事業) は、大学、短期大学及び高等専門学校が、自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・</p>

主 要 事 業	実 施 事 業
<p>②科学研究費助成事業</p>	<p>社会貢献を行う事業を対象としている。</p> <p>本学では、山形県と庄内の2市3町(鶴岡市・酒田市・三川町・庄内町・遊佐町)と連携し、「地域力結集による人材育成と複合型課題の解決ー庄内モデルの発信」をテーマとして申請し採択された。申請額は 2億5,100万円(5年間)である。</p> <p>(申請件数319件のうち52件が採択され、そのうち、山形県内での採択は2件であった。東北・北海道地区の私学では本学1件のみある。※東北の私立大学総数55件で、うち申請は19件。採択は本学1件のみ)</p> <p>事業概要としては以下のとおり(申請書より)。今後、平成29年度まで、以下の事業を推進する。</p> <p>山形県庄内地域唯一の四年制大学として開学した本学は、以来一貫して地域の課題に取り組んできた。一方、地域の課題はなかなか解決に結びつかないのが現状である。本申請では、その要因を「地域の課題が複合的であること」「地域でリーダーとして動く人材の不足」と捉え、カリキュラムを改編するとともに、若者を中心に地域の人材育成を行い、課題解決に取り組む。</p> <p>具体的には次の事業をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域課題に対応したカリキュラムの再編 2) 地域リーダーを育てる体系的な教育プログラムの展開 3) 産学官民及び一般市民の参画によるプラットフォームの設置 4) 「課題解決アクションプロジェクト」の実施 5) 活動を映像としてアーカイブ化した地域課題解決の「庄内モデル」の発信 <p>このような地域の力を結集した事業を進めることにより、課題解決に取り組む人材の育成を図り、もって複合型地域課題解決を図る。これらの一連の仕組みを実践モデルとして発信する。</p> <p>平成25年度科学研究費助成事業は7人の応募に対し2名が採択された。</p> <p>また、継続者は3名で、科学研究費助成事業の総額は、直接経費合計7,500,000円に間接経費合計2,250,000円を加えた、9,750,000円となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名新規採択 基盤研究(B)1名 平成25年度～平成27年度 若手研究(B)1名 平成25年度～平成27年度

主 要 事 業	実 施 事 業		
<p>③受託研究事業</p>	<p>・ 3名継続 基盤研究 (C) 2名 平成 23 年度～平成 25 年度 若手研究 (B) 1名 平成 23 年度～平成 25 年度</p>		
	<p>平成 25 年度受託研究事業</p>		
	委託元	契約金額	研究・事業名
	(有)グローバルアイ	1,732,500 円	紅花若菜粉末等のフリーラジカル消去作用の分析・メタボローム解析および評価に係る研究
	酒田市	1,000,000 円	大学まちづくり政策形成事業
	酒田市中心市街地 まちづくり協議会	1,000,000 円	まちづくり人材連携強化事業
	独立行政法人 日本学術振興会	500,000 円	『東日本大震災学術調査』「行政・地方自治」
	鶴岡市	380,000 円	手向地区「まちあるきマップ」素案作成業務
	鶴岡市	260,000 円	手向地区「まち歩きイベント」企画に係る業務
	鶴岡市	220,000 円	門前町の町並景観の保全・創造事業 「まちづくり協定書素案作成業務」
鶴岡市加茂地域自治 会振興会	202,333 円	庄内景観回廊 加茂地区活性化事業 地域づくり推進業務	
<p>④補助・助成事業</p>	<p>平成 25 年度補助・助成事業</p>		
	自治体・団体名	補助・助成金額	事業名
	山形県	4,872,419 円	高等教育機関やまがた人材育成プログラム推進事業費補助金 「就業力の育成とエネルギー人材の育成」
	鶴岡市	2,040,000 円	創造都市デザインセンター研究支援事業
庄内開発協議会	1,000,000 円	公益のふるさとづくり活動補助金 「公益の地域づくりリーダー育成ゼミ事業」	

主 要 事 業	実 施 事 業		
	子どもゆめ基金 (独立行政法人国立青 少年教育振興機構)	781,179 円	かずのふしぎ、しぜんのふしぎ 2013(1) かずのふしぎ、しぜんのふしぎ 2013(2)
	子どもゆめ基金 (独立行政法人国立青 少年教育振興機構)	257,494 円	身近なもので電気をつくろう！
	庄内開発協議会	200,000 円	市民参加による「まち並再現」プロジェクト及び 「連続講座内川学5」の開催事業